

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 9 月 17 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3490500208		
法人名	医療法人エム・エム会		
事業所名	ぐるーぷほーむ九嶺		
所在地	広島県呉市本通一丁目-1-1メガネ橋プラザ4階 (電話)		
自己評価作成日	平成23年8月29日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3410512796&SCD=160
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
	平成23年9月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた呉市中央部にあるマンション4階のグループホーム 季節の行事、誕生会など、家庭的雰囲気の中で地域との交流を図ります。 家族との連携を図ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム九嶺は呉市街地中央の呉港が見渡せるビル4階に一年前に創設され、母体提携病院がリハビリ専門病医である特徴が生かされ、利用者の体力維持、機能低下防止を主目標にされたホームです。施設代表者は地域との関わりの経験も長く、熱意ある管理者、協力的なスタッフと共に利用者や家族に信頼された安心安全そして楽しさを兼ね備えたホームの維持に努められています。その一策として、通常通院されているリハビリ施設の職員が日々交代制でホームの補助介護者として来所し、利用者との馴染み関係となり、ホームの支援の手厚さに役立っています。今後も主目標とされている、利用者へのサービスや地域との交流がより一層深められる事が期待されます。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	いつでも見えるように掲示している	母体医療法人グループ全体としての理念が掲示され、ミーティング時間に唱和されている。	認知症介護施設「九嶺」として独自の取り組みが盛り込まれた理念を作られ、全職員で共有され、支援の柱とされることが望まれます。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事に参加している	七夕祭りや近隣の作業所が開かれるイベントに参加される他、母体病院が主体で開催される近隣との交流会(新年茶話会等)に参加されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	努力項目		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活かしている	運営推進会議には市役所福祉保健課、町内会長、呉中央地域包括センター、利用者の家族代表が出席され、九嶺の管理者が運営方針の説明や行事報告、今後の予定等を話し、町内会長からは地域の高齢者の様子や認知症ネットワークの情報を頂いている。又、日常生活の様子をスライドショーで見て頂いている。	運営推進会議の議題を幅広く進める為にも民生委員や地域の主だった方に声かけをされ又家族が近隣地域の方が殆どなので全家族に声かけをされて出席を求められる事が望まれます。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加していただいている	グループホーム創設にあたって、書類関係や運営上の問題点等の相談に応じてもらった。今後も疑問点などある時は協力をお願いして行きたい。地域包括にも空き室状況などを連絡している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在該当者なし	医療法人全体としても身体拘束をしない方針が強調され、職員全員で身体拘束についての研修を持たれ、ケアの実践に取組まれている。ホームがビル4階に位置し、玄関は開放されているが、安全確保のため門扉は施錠されている。利用者の要望にはその都度寄り添って外出に対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修なども含め防止している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在該当者なし		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	努力している		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃からスタッフに聞く耳を持つよう指導し、ご要望やご不満を聞くようにしている	入居者が呉市内や近隣地域の方ばかりなので家族の訪問者が多く管理者や職員は直接にご意見や要望を聞き把握するように努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝夕ミーティングしている	管理者はミーティング時間、申し送り時間には必ず出席し、職員の意見や提案をくみ取り運営に反映するよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備	努力している		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	積極的に研修に参加してもらっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みを	複数連携事業所つばきを立ち上げ、合同研修の場や情報交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	努力している		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努め</p>	努力している		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	努力している		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	信頼関係を築くよう努めている		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いて</p>	信頼関係を築くよう努めている		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	自由に訪問していただいている	職員の明るい雰囲気での対応があり、家族や友人が何時も自由に出入りされている。訪問当日も男性入居者の友人が居室に自由に訪問されていた。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	入居者様同士の和を大切にしている		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	勤めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	許せる範囲で本人本位にしている	一時帰宅を希望される方には、家族同伴で帰宅してもらったり、おやつ希望を叶えたりもしている。家族や訪問者が持参された食品については健康管理上ホームで管理しながら、本人の要望通りに提供している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努力している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努力している		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画	介護計画には本人と家族の希望を盛り込んでいる	介護計画は、会話が成立する利用者には家族を交えて直接要望を覗き、毎日の記録を基に職員の意見も取り入れ又通院されているリハビリの状況も参考にしつつ、本人本位で作成している	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ間の情報共有を大切にしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	努力している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	努力している		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と連携を取り合い支援している	入所前からのかかりつけ医(主には内科)は継続して受診を依頼し、整形については隣接母体病院でリハビリを継続されながら支援されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	努力している		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでい	努力している	開設以来1年が経過したが、主となっている提携病院がリハビリ専門医であること、重度化に対する職員の準備体制は不十分である。利用者の介護度平均が軽度である等の要因もあり、入所時にターミナルには応じていないことを説明している。	高齢化の進む時代背景がある中で、利用者の要望も起きる可能性もあり、今後は重度化に対する職員研修なども取り入れられることが望まれます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けてい	研修や検討をしている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力を体	避難誘導訓練を行っている	ホームがビル4階に位置している事で、管理者、職員は災害対策は重要課題とされている。主に火災を想定した避難訓練を利用者を伴って実行されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー、人権研修などの研修を行いプライバシーを大切にしている	接遇マナーやプライバシーの保護について施設内研修に取り入れ、職員全員で共有し利用者個人個人への声かけや接遇に心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望	各人のペースを大切にし、できるだけ希望に沿った暮らしが出来るよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	夜間は寝間着、昼間は私服にきがえていただき、その日に着たいものを着ていただいている		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	努力している	食事は母体病院の管理栄養士の献立で、病院の厨房より運ばれ、ホーム内キッチンで配膳されて提供している。食事の準備や後片付けの声かけはしているが、現入居者には要望がなく、職員の業務となっている。	特に介護度軽度な利用者に対し、声かけを十分にされ、職員と共に軽作業の食事の準備や後片付けをされ、共に過ごされる楽しさの会話の場をより増やされることを期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	している		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄はトイレ誘導で行い、ポータブルトイレやおむつ使用はできるだけ控えるようにしている	利用者が少数(9人)なのでリハビリパンツをしてもらっている方はあるが、ポータブルやおむつに頼らず、声かけを重点にした支援をしている。	排泄の自立が、現状のまま継続される支援が望まれます。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	取り組んでいる		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々	努力している	いつでも入浴の希望に応じてはいるが、自分から希望する方はあまりなく、職員に勧められて入浴されているのが現状である。週2回は入浴してもらうよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努	務めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割, 楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 嗜好品, 楽しみごと, 気分転換	支援している		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援に努めている。また, 普段は行けないような場所でも, 本人の希望を把握し, 家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	花見や紅葉の季節にドライブなど計画している	花見や紅葉狩りなど季節の行事としてドライブを企画している。その他家族が通院やお盆のお墓参りに外泊や外出に同行されて本人本位に支援が続けられている。リハビリの為に併設の病院へ通院されることも体調管理と共に気分転換の外出支援となっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援している		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関, 廊下, 居間, 台所, 食堂, 浴室, トイレ等)が, 利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音, 光, 色, 広さ, 温度など)がないように配慮し, 生活感や季節感を採り入れて, 居心地よく過ごせるような工夫を	工夫している	ホームの玄関部分を兼ねた広いホールを共用の食堂兼居室とされ, ベランダに面して呉港が見渡せる眺望があり明るく開放されている。内側が和風の建具が使用されていて, 柔らかい雰囲気が醸し出されている。利用者は杖や歩行器, 車椅子等で自由に出入りされ, 馴染みの方同士が歓談される場面が見受けられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で, 独りになれたり, 気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	工夫している		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は, 本人や家族と相談しながら, 使い慣れたものや好みのものを活かして, 本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している	介護用ベットと衣類用のタンスはホームで用意されているが, 自宅で使い慣れた椅子や小机, 小物置きなどが本人の意向に応じられて配置されている。居室のドアは其々趣の異なったガラス格子(内側にカーテンが整った)とされ個別感が作られている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして, 安全かつできるだけ自立した生活が送れるように	工夫している		

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

ぐるーぷほーむ九嶺

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ぐるーぷほーむ九嶺

作成日 平成 23年 8月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		認知症の進行	現在の状態を維持し、 進行を防ぐ	行事などで、日々の生活に変化をつけ、精神 賦活運動に努める	6か月
2		身体機能のレベル低下	身体機能の維持向上に 努める	リハビリ・物療治療に 通院。出来ることは自 力でしていただく。	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。